2005 年 12 月 15 日発行　年 4 回発行　通巻 43 号　ISSN 1341-545X

自然科学のとびら

Newsletter of the Kanagawa Prefectural Museum of Natural History

Vol. 11, No. 4　　神奈川県立生命の星・地球博物館　　Dec., 2005

ビジャリカ（Villarrica）火山 山頂火口

2004 年 11 月

右下の写真
　杉内由佳氏（立正大学）

萬年一剛（まんねんかずたか）（温泉地学研究所）

チリ南部にそびえるビジャリカ火山は標高 2847 m の成層火山です。この火山は非常に活動的で、山頂火口の中には溶岩湖が形成されています。溶岩湖の表面は黒々とした溶岩によって覆われていますが、そのすぐ下にはどろどろに溶けた真っ赤な溶岩があります。火口湖の溶岩の中では火山ガスの泡が次々と生まれています。この泡は他の泡と合体を繰り返して大きな泡に成長します。こうして出来た大きな泡は、最後に溶岩湖の表面近くではじけて、火山ガスが大気に放出されます。大きな泡がはじけるときには、溶岩湖の表面は吹き飛ばされ、中の真っ赤な溶岩が飛び散ります。大きな写真は、火口を覗いたもので、ちょうど大きな泡がはじけたところです。昼間は真っ黒に見える溶岩湖の表面ですが、実は弱いながらも赤く輝いており、夜になると右下の写真のように火映現象が見られます。

（30 ページに関連記事）